

研究主題

『多様な学びを通して、自己の生活に生かせる資質と能力』の育成

～自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める授業づくりとともに、各教育活動と関連を図る道徳教育の実践を通して～

越谷市立蒲生南小学校

1 研究主題の設定理由

全国や埼玉県の学力・学習状況調査の質問紙調査や越谷市独自のアンケートの結果より、自己肯定感、粘り強さ、勤勉性、規律ある態度などの観点に課題が見られ、1つは道徳性を養う道徳教育を推進する必要性があること、もう1つは学力向上の下支えとなる非認知能力を高める必要性があること、主にこの2点を踏まえ、本校の課題解決に取り組むという根拠をもとに設定した。

2 研究の仮説

- (1) 道徳科と他の教育活動の道徳的価値を有機的に関連付けた学習指導を実践すれば、主体的に判断してよりよく行動することができるであろう。
- (2) 道徳科の目標・特質をおさえた学習指導過程を構想し、授業実践をすれば、より深く自己を見つめることができるであろう。

3 研究の経過

時期	内容
4月	・今年度の課題研修の共通理解(本校の課題、目指す力の具体化、仮説など) ・各研究部の年間計画の作成
5月	・講演「『考え、議論する道徳』の授業実践に向けて」 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 浅見哲也先生
6月	・第1回校内授業研究会
8月	・講演「授業改善の実際について」 上越教育大学客員講師 齋藤真弓先生
9月	・2学期の取組の共通理解 ・第1回道徳に関する実態調査、及び分析・考察
10月	・越谷市教育委員会・東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当 学校訪問(兼ねて第2回校内授業研究会) ・埼玉県教育局東部教育事務所学力向上推進担当 指導主事 武林慈子先生

埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

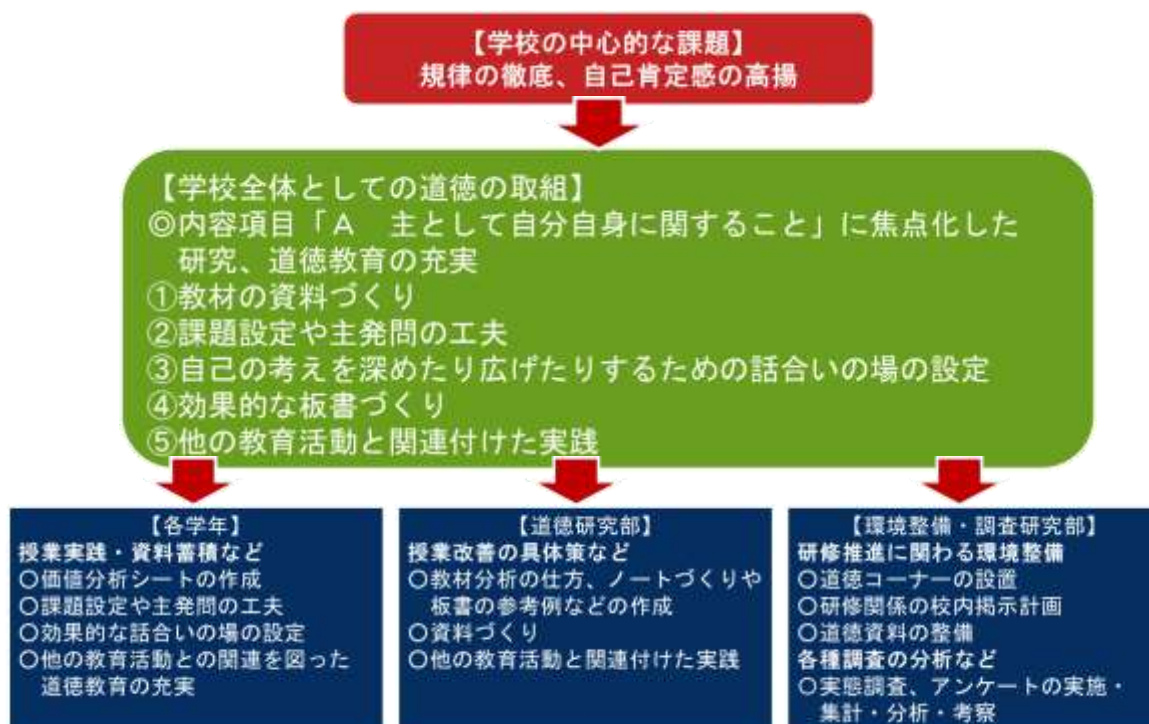
11月	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県道徳教育研究推進モデル校に係る学校訪問（授業公開及び指導助言） 埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 芳賀一行先生 埼玉県教育局東部教育事務所教育支援担当 指導主事 秋山香奈子先生 越谷市教育委員会指導課教育指導担当 主任指導主事 風間俊樹先生
1月	<ul style="list-style-type: none"> 3学期の取組の共通理解
2月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回道徳に関する実態調査、及び分析・考察 今年度の成果と課題をふまえた来年度の計画作成
3月	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の課題研修について共通理解

※上記以外に、具体的な取組について道徳研究部会で協議・検討（月1回程度）

4 研究の内容

(1) 研究の組織

全教職員が参画できるように体制を整えている。また、各研究部が本校の課題解決に向けて機能するように、取り組むことを明確にしている。



(2) 授業改善に関わる取組

① 指導者を招聘した研修会の実施

- 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 浅見哲也先生によるご講演

→研修会後は、「児童の実態をふまえたねらい」を設定できるように教材研究に努めている。

- 上越教育大学客員講師 齋藤眞弓先生によるご講演

→研修会後は、「価値分析シート」を取り入れた教材研究に努めている。



②価値分析シートの活用

上越教育大学客員講師 齋藤真弓先生のご講演を参考に、指導する内容項目についての解釈を確かなものにするため、ねらいとする価値を分析してみる「価値分析シート」を教材研究に活用している。令和4年度は全学年の教員が内容項目Aについての「価値分析シート」を作成した。



③板書や授業メモのデータ保存・共有

授業改善の参考にするために、授業の板書などをデータとして保存している。授業後に学年でふり返しを行い、「有効な主発問」や「児童の反応」等を簡潔に記録したものも保存している。

④他教科等との関連を図った実践

道徳教育の充実を図るために、内容項目に関わる学習や他の教育活動を関連付けた実践についても研究している。各教科等の特質をおさえながら、他の教育活動（各教科等の授業）と関連付けることにより、指導の効果を高められるようにしている。

※右の資料は、
第1学年の
実践例



⑤埼玉県の道徳教育教材資料集「彩の国の道徳」の活用

全学級で「彩の国の道徳」を用いた授業を実施している。

内容項目【D 生命の尊さ】
教材名 「家族のアルバム」(3年)
(出典:「彩の国のどうとく
みんななかよし 埼玉県教育委員会」)

内容項目【A 節度、節制】
教材名 「ぼくのえんぴつ」(4年)
(出典:「彩の国のどうとく
みんななかよし 埼玉県教育委員会」)



(3)家庭・地域との連携を目指す道徳教育の推進

①道徳科の授業公開

保護者や地域の方々の道徳教育への理解や協力を得るために、学校公開日等に道徳科の授業を公開している。



②道徳だよりの発行・配布

毎学期発行している「道徳だよりの」では、授業や道徳教育の活動を掲載し、保護者に向けて周知している。たよりにには、話題提供と啓発を兼ねて、家庭用「彩の国の道徳」等を掲載しているほか、保護者からの感想やテーマについての意見を集約し、相互の協力体制を構築できるように努めている。



保護者からの声は、次号のたよりで紹介

5 研究の成果と課題

(1)研究の成果

・教材研究においては、日頃の児童の様子やアンケート結果などから、授業づくりにおいて「児童の実態をふまえたねらい」の設定に努めることができた。

・子どもたちが本音を語り合える雰囲気づくりを進めるとともに、教師の発問や切り返し発問から、多様な考えを引き出し、さらにそこから子どもたちに考えさせ、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深める授業づくりに取り組むことができた。

内容	項目	小4	小5	小6
①はじめのある生活ができる	1 時刻を守る ② 授業開始時刻	86.2%	92.4%	97.6%
②礼儀正しく人と接することができる	3 進んで挨拶や返事をする ⑥ 返事	84.0%	85.9%	94.0%
③約束や決まりを守ることができる	6 生活のきまりを守る ⑪ 集団の場での態度	81.9%	88.0%	89.2%

・「規律ある態度」達成目標の調査結果から学年が上がるにつれて達成率が高まる傾向にある。12月に実施したアンケート調査では、「規範づくり 学校のきまりを守って行動していますか」の質問に対する肯定的な意見が93%であり、「約束やきまりを守ること」に関して、児童の心の成長が見られた。道徳科を中心とした道徳教育の実践が、児童の生活に成果として表れている。

(2)研究の課題

・越谷市独自のアンケートの結果や、本校意識調査における「基本的な生活習慣」に関する項目の結果の分析から、児童の認識と日常の行動とで差が見られた。引き続き、児童が自分事として考えられるような道徳科の授業改善やより一層の道徳教育の充実が必要である。

・近々の学校事情も鑑み、「若手・ベテラン関係なく、誰もが取り組める道徳科の授業づくり」、「道徳科の授業づくりに関わるデータの蓄積」にも努めながら引き続き、研究に取り組んでいく。